

刊夕 日三月八



定価 一部全金 月金五拾肆圓
 廣告料 五拾二字 行金五拾肆圓
 日曜 祭日 休刊
 印刷所 常磐毎日新聞社
 電話 六二〇〇
 印刷部 常磐毎日新聞社
 電話 六二〇〇

東洋藝術への道

島田 忠夫

故萬鐵五郎畫伯が、先年『美術新論』に掲載したる遺稿にもあたるべきものに『西洋畫における東洋畫への趨勢』といふやうな論文があつた。いま内容の全部を記憶してをらぬが、その論旨であつた西洋畫より東洋畫への歸趨傾向は現時も多くの實蹟を擧げてゐると思ふ。近代日本の著名な畫家にも小杉放庵、故森田恒友、故岸田劉生、萬鐵五郎の諸畫伯はまさしくそれであり、これらの諸氏は東洋畫への趨向と謂はんよりはむしろ東洋人本來としての藝術精神に復歸されたるの感がある。茲では元より東洋的畫法に就いて言ふのではない。西洋畫にてもルソンの作『若き陀佛』(土田麥僊氏藏)を故芥川龍之助氏が『東洋の呼び聲を感ずる作』として擧げてゐる(註一)これは『若き陀佛』が東洋的情緒に據つて製作されたといふ先入感情に對する氏の直觀的批判であらうが同じく先年ルソンのこの作を鑑賞して豫もやゝそれに近い感を抱いた。數年前雜

誌『アララギ』の口繪として故森田恒友畫伯が紹介されたるルソンの『花』の靜物(寫真版)の細長き花瓶に挿れた小花をつけたる植物の繪を觀て豫は却より度しき東洋的精神を感じた。印象派畫家シスレーの作には、多くの東洋的要素を見出すことによつて予は好んでゐる。マチスの近作しかも東洋味を帯びた數葉のデッサン複製(吉江喬松氏藏)を先頃觀るに及んで、かの西洋大家の近づかんとする東洋は、東洋人の藝術精神或ひは民族的感情とは遙に大きな隔たりあるを感じた。詩人クロオデル氏が、吾が富田溪仙畫伯の藝術作品に、ふかき驚嘆と鎮仰を惜まなかつた如きも、クロオデル氏の博大な識眼を以てしても西洋には見出されないう一種深遠なる、東洋藝術の獨創性への驚異であつたに外なぬと思ふ。

常磐文藝

わかれ

笹野 純

思ひ出してはみんな夢かたり合つたも仇し夢

きれいな顔も仇し夢
 とほく離れていまさうに
 思うてみても何んとせう
 君のたよりを空頼み
 いとしい人よおわかれと
 泣いたそのかは眼にみえ、
 越後の國は幾十里
 越後の國は幾十里
 何んでも思ひがとどかうぞ
 今宵の日は身にしみる

美味!
 芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社
 電話一〇番

外科 専門 X
 線科 光
 上田外科醫院
 平町 南町
 電話一二九番

弊院儀今般都合により元平郵便局裏三丁目裏川岸通りに移轉仕候從前通り診療に從事仕り候間右謹告仕り候
 七月二十五日
 田町五番地
明雲堂眼科醫院
 新妻幸之助
 電 六六九

暑中御伺
 時節柄宣傳には……
是非! チンドンヤを
 御利用下さい
 委細は平町仲間町六九
丸屋春日亭米之

玉屋洋品店
 平町町通電話五六六番

これから暑くなつてきます胃腸を害しますね
 お通じの具合も悪くなつて或は下痢をしたり或は三日も四日も便通がなく頭痛を感じる御方はキキメの早い
靈効散
 胃腸藥を御試し下さい
 胃腸病、心臟病、膈、痔、適應藥三年五年と患ふ慢性胃腸病が全快した人が澤山あります御望の方には見本藥一日分を差上ますから御遠慮なく御來局下さい
 平町古鍛冶町縣社の下
阿康藥局
 藥と相談所
 衛生相談所
 電話 四四番
 振替口座 東京三〇〇三

内科 外科 一般
金成醫院
 金成 忠義
 平鎌田町(電三五八)

放天幸齋
 私は平町出生ですから特に郷里の皆様方の爲めに御便宜を圖ります
 主人 **比佐棟雄**

耳鼻咽喉科専門
 病室完備
 自炊便有
山内醫院
 醫學士 山内亨吉
 平町町(電話六九番)

青年團を中心に

防護團結成

空の護りに完璧を期し

明夜結團式を舉行する

平町では今秋九月縣下一齋に施行される防空演習に關し、之が完璧を期するため既報の如く防護委員、並に防護團を結成して再三に互る準備打合せを進めて來たが昨二日午前八時から同町會議室に防護團協議會を開催、左の如く青年團を中心體的役員を決定明日午後七時から會議室に於て防護團結團式を舉行することに

- 東部一團長大間嘉繁 副團長岡田健吉(警備)班長藁谷喜太郎 副丹野徳好 吉田増造(警報)班長瀧口豊 副松本三平 川又新 石川清(防火)班長坂本爲一 山崎元三郎 古川龜太郎(交通整理)班長猪狩正成 副關内榮助 根本武雄(避難管理)小泉五郎 副清水英 大塚吉藏(工作)班長古川清治 副高田清二 藁谷四郎(防毒)班長大原寅雄 副緒形要治 長谷川三郎(救護)班長荒井常信 副白土武雄 吉野運之助(配給)班長渡邊儀四郎 副高野正義 加茂慶藏

- 西部一團長青天目源一郎 副石坂一雄(警備)班長阿部傳六副渡邊敏 野木稔彌(警報)班長山崎忠兵衛 副石山一治 關内庄平 神谷泰一郎(防火)班長海老原章四郎 副柏原光太郎 吉田正(交通整理)班長鈴木義忠 副小松崎子之吉 永山一枝 (避難管理)班長草野英副高根澤正一 中村定吉 (工作)班長吉田彦太郎 副西脇信二郎 菊地竹雄 (防毒)班長中野勇雄 副田卷重三 高瀬勝男(救護)班長比佐三郎 副室橋光 鈴木新右門(配給)班長植頭憲太郎 小野益三郎 屋島治三郎 北部一團長鈴木良三 副鈴木友光(警備)班長古川一三 副森下貞雄 吉田茂喜(警報)班長久野金二 副松浦貫二 古田部武正 (防火)班長小室耕 副鈴木徳彌 鈴木豊政(避難管理)班長東條祐英 副松浦誠 永山一(工作)班長古田部義雄 副大竹榮一 川上金六(防毒)班長大山庄松 副小野竹司 鈴木福司(救護)班長矢野

共販高値

持米不足で

既報去る一日行はれた平農業倉庫の共同販賣は出荷數五百四十一俵で最高十二圓五十四錢、安値二圓三十五錢で落札したが東京市場の高値と農家持米の欠乏から前回に比し五錢の高値を見せた

經濟更生に

實行組合を

各部落別に

經濟更生指定村の草野村は之が計畫實施に當り實行法として部落別の實行組合を設立することになり昨日同村馬目部落で相談會を開いた結果水品部落三組合北神谷部落四組合、の設立を見ることになつた

防空映畫

平町で公開

平町は来る八月午後七時から同役場前庭に防空に關する映畫會を開催、一般に無料で見ることができ、尙雨天の際は聚樂館で舉行の筈

乗降客激増して

植田驛舎が狭い

ガソリンの延長と共に

鐵道省に陳情する

常磐線植田驛は隣村錦村に昭和八工務局設立されて以來唯一の利用驛として乗降客數が目覚ましく一日平均千三百餘名に達して從來の二倍半に相當する大激増振りを現して來たが乗降客の激増と共に現在の待合室(九坪)狹隘を告げ列車乗客が屋外に待たされる等の不便を來たしてゐるため地元植田町並に關係町村では主務省に對して驛舎擴張の陳情を爲すことになり同時現

軍人武術

優勝選手

優勝旗は古河

既報去る一日開催された在郷軍人石城聯合分會の第九回武術大會は總得点二十八点三で古河炭礦が優勝旗を獲得、大野これに次ぎ個人の優勝者左の如くであ

格付相場

菜種第二回の

石城販賣利用組合は今日午前十時から團體事務所樓上に穀物相場會關係者を招き第二回菜種の格付は相場に就いて打合せを行つたが行つたが現在の菜種相場は過般第一回打合せで決定した一俵十圓五錢以上に達せず結局第一回相場より幾分安値に落付くものと見られて居るが組合では既に十圓五十錢の相場で千八百餘俵を買入れ本年度産菜種の搾油を開始した

縣營砂防工事

上遠

野村深山田内縣營砂防工

事は工費九萬圓を投じて一、二年度繼續事業で近く先崎技手が工事主任となり着工する

植田軟式野球

植田

町スポーツ協會主催の第四

回常盤軟式野球大會は来る

八九月同日町小學校庭で開催

簡閱點呼豫習

既報

平町の簡閱點呼豫習教育は今

- △射擊 1歩兵一等兵須田政夫(警備) 2歩兵上等兵國府田忠男(平窪) △軍刀術 12歩少尉加藤幸一(古河) 2海軍三等兵曹大友能一(夏井) △銃劍術 1歩兵上等兵金成道安(好間) 2海軍三等兵曹鈴木七郎(小名)
- △射擊 1歩兵一等兵須田政夫(警備) 2歩兵上等兵國府田忠男(平窪) △軍刀術 12歩少尉加藤幸一(古河) 2海軍三等兵曹大友能一(夏井) △銃劍術 1歩兵上等兵金成道安(好間) 2海軍三等兵曹鈴木七郎(小名)

加世子さん(二)

平第一日歸り

臨海學校通信

今日は第一日なので皆な喜びは一通りではありません、朝は普通學校へ行くよりも早く起きて御飯もろくに食べないで早くから停車場前に集つてわいさわいでゐました。いよいよ自動車に乗るとあまりの嬉しさに先生に叱られても平氣でさわいでゐるので時々先生が呼こをならしてさわぐのをしめる、停車場前を出てから約三十分後に目的地の新舞子に着くと、一せいに自動車を我先にとおろす。やがて裸かになつて「ラヂオ体操」をするのに二年の小さいものはふんどしをかざるのが出来ないで、一々先生の所へ行くものが居る。ラヂオ体操が終ると牛乳を飲み、夏休のおさらい帳を出して今日の分を書き、方々で「こゝしつてゐるか?」などといふ聲が聞こえる。先生は「一々生徒の所へいつて教へてくださる野清氏長女恵美子さん」

平町人事

出生

△田町四六當時宮城縣互理

郡互理町宇五日町二四小

野清氏長女恵美子さん

△東京市荒川區尾久町二丁

目七三七小池芳美氏(二

六)北目町七八國友トク

さん(二三)

△東京市淺草區山谷町一丁

目四本多時次郎氏(五三)

月見町二〇松本ミネさん

(四四)

△大館三四當時好間村大字

北好間字椎木平三(五三)

△死

△大館三四當時好間村大字

北好間字椎木平三(五三)

△死

夫になる。(第一班長關原進)

浅墓な女房

愛兒を道連

母子四人で心中

夫婦喧嘩で昂奮の餘り

昨日午前八時頃内郷村字堀坂地内鬼ヶ澤の溜池に母子四人の心中溺死体あるを水泳に行つた附近の子供達が発見、平署で検視した結果同村宮字峰根磐城炭礦測量助手勝次妻渡邊さえ(三七)ほか長男昭造(九)次男正(五)三男弘(三)の屍体と判明。去る廿六日長男昭造の署中休暇中林間學校にやゝ昂奮したさえは不斷からの生活苦の結果前記三名を連れて家出行方を捜査中たつたものである

最高水揚

本年鯉漁の

江名清勝丸が

二萬五千尾を

金華山沖合二百哩を漁場とする鯉漁はいよゝ本格的となつたが江名町の大型漁船清勝丸は去る一日二萬二千尾を漁獲して小名濱港に水揚げしたが一航海に二萬五千尾の水揚は本年度の最高記録でその他の漁船も平均一隻八千尾を水揚げして濱は大漁景氣の油が乗つて居る

青沼町長 鎌先へ

樂に歩行が

出来る

青沼町長は其後病院生活に引續き自宅静養中であるつたが傷は全く全快、亦腰部の捻座も良好に向つて歩行に困難を感じぬ程度になつたので一日午前八時二十分平驛發で宮城縣鎌先温泉に夫人令息同道、長谷川學務書記の案内に向つたが車中も大元氣で無事鎌先温泉の旅舎一條屋旅館に寛ぎ直ちに入浴して疲勞も知

小名濱に

白骨屍体

昨日午後一時頃小名濱町漁船第三新榮丸(船長小池豊茂氏)が同町沖合四十哩の海上に出漁中白骨と化した屍体を発見、平署で検視の結果、身元不明であるが去る四月廿五日豊間村鹽谷崎沖合で遭難した江名町長勢丸の乗組員八名中(六名は既に死体発見)の死体と見られてゐる

脱衣場を

荒し廻る

四倉で逮捕

四倉署では最近海水浴脱衣場荒しや空巢視ひが續出るので捜査中双葉郡龍田村生れ住所不定鈴木徳男(三〇)を被疑者として檢舉取調の結果、海水浴客を自當に脱衣場荒し空巢等三百餘圓の窃盗を働いた旨自白した

九年振りの人出

平驛浴客に埋る

押すなゝの大雑沓

昨日の第一日曜は薄曇りの天候にもめげず平驛に殺倒した浴客を押すなゝの雑沓を見せ殊に當日は波立薬師の本祭もあるの子供連れの家族が多く大騒ぎを演じたが當日平驛の乗車数は三千五百三名、降車三千七百六十一名、乗降記録では昭和二年以來九年振りの人出である

水石登山隊

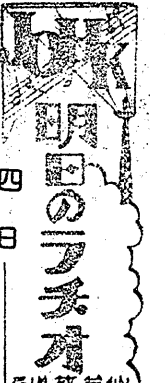
平第一

元氣で歸校

石登山隊は卅一日午後二時校門を出發同夜は關ヶ井嶽薬師に一泊翌日求石山頂を極めて一名の落伍者もなく午後四時頃元氣で歸校した

別雷神社宵祭

六七
丁目別雷神社の夏祭は明四



明日のラジオ
今夜は北東の風
後小雨 明日は
北の風くもり

今晩の部

後六〇〇 子供の時間う
偉人物語「吉田松陰」東
京放送児童研究会
後六二五 趣味講座(函
館)史蹟巡り「北海道南
の蝦夷大亂とその遺蹟」
後七三〇 講演「第七回
世界教育會議について」
帝國教育會長永田秀次郎
後八〇〇 涼味通信(長
日の晩に浪曲、漫談、花火
等の餘興がある

セーラー服を

悉ち縫ひ上る

第三校の六年女生徒

暑さの中を裁縫練習

平第二小學校では去る一日より三日間六年女生徒の希望者二十名に裁縫の特別指導を行つて小學生用制服の仕立方を教授して居るがセーラー服や簡單服を生徒自身が美事に作り成績が非常に良いと

好問校同窓會

好問小學校同窓會は来る十五日午前十時から開催されるが當日は舊師を圍み餘興に懷舊談に一日を楽しく過すと

遊戯講習開始

石城女教員會主催夏季遊戯講習會は昨日午前八時から平第二校講堂で東京府立第六高女鈴木タケ教諭指導の下に開始、百八十餘名參集

大會實況録音放送
前七、〇一 朝の修養「無門關」神保如天
前七、四一 中等學校復習の時間 動物「動物學」は如何なる學問か 佐藤隼夫
前八、一〇 小學生おさらひの時間「算術」矢鋪大治郎
後八、四〇 婦人夏期講座「習字」山崎光子
後一〇、三〇 家庭講座「育兒」十二月「夏の自然と乳幼児」大久保直穆
前一一、〇〇 都市對抗野球 大會神宮球場中継
後一〇、〇五 マンドリン五處された

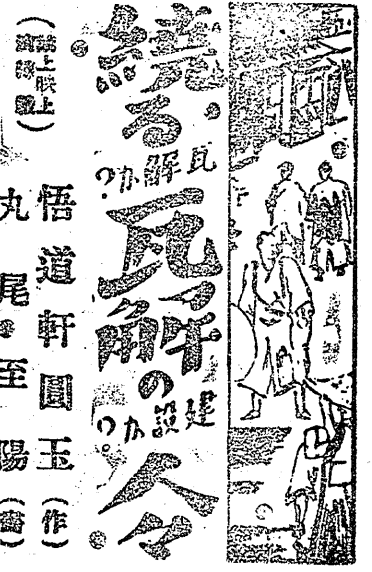
平職契約所報告

人々を求めの方
△出前持 十五、二ト才迄 給料五圓
△同 二十二才 迄給五圓 外仕着
△柏 二十五才 迄給十圓
△女中 廿五才迄 給三圓 外チツツ
△牛乳配達 二十才 迄給五圓
職を求めの方
△石版印刷工 二十五才 高卒
△藥品職工 二十一才 中卒
△西洋洗濯 三十一才 尋卒
△コック職工 二十六才同
△コック 二十四才 同
△サイドカー運轉手 三十才 同
△信通工手 二十三才 高卒
△十子守 二十才 尋卒
△給仕 十六才 尋卒

御位牌と 佛壇佛具

橋本屋
平・新川明
安い
電一六三

和漆器と家具は 橋本屋
電話四〇五番



（前上巻上）
丸尾至陽（畫）

謎を解く瓦解の謎

一八七 長鯨丸御乗船

小原長兵衛は百姓のごとく扮装にて宮様の先に立ちますが、これは物見です、行く先々の警戒を見て何うしても行くことが出来ぬと見た時は引返すつもり、覺王院義親はじめその他お付の僧はこれにてお別れ申すことにしたがり、またしても法衣の袖をしぼる。宮様は笠をふかく召されて佐兵衛を供に長兵衛を先に立て下尾久村をあとにしてまづ三輪にかゝつてお出でになる。先に行く長兵衛が見るとこの邊はブーツと官軍の兵士が警戒して上野の方から来るものは、勿論、後から来るものも呼びとめてはしらべてゐる。

長『これは大變だ、しかしこゝまで来て引返せば怪しまれる、運を天にまかせてこゝを通つて見ろ』

とことさらに悠々とそれへかゝつて来たが固めてゐる官軍に向ひ

長『旦那が毎日御苦勞様でございます、お疲れでございませう』

とかういつて通り過ぎたが宮様は何う遊ばしたかぶ



りむいた

時に輪王寺の御門主には佐兵衛をしたがひ悠然と官軍の警戒してゐるところを、お通りなされた、官軍もこれが宮様とは気がつかない警者と見たからたづねもいたさぬ、佐兵衛は例の薬箱と見せた箱膳を背にしてこれも悠々とこの警戒線をお

さされた翌日佐兵衛と長兵衛がつきさうて鐵砲洲においでになつて松坂屋といふ船宿に一時おちつきました、何んでこゝへ来たといふに、この船宿からはしげに仕立し品川に碇泊いたし居る幕府の軍艦へ用事あるものをおく、これはこぶ寺においでなされた時にお聞きなされた故をこゝへお出でになつた、松坂屋の主人は今おこしなされたお方は宮様と聞いておどろき直に船を仕立て長鯨丸へ御案内いたした、幕臣榎本釜次郎は輪王寺の御門主これへいらせられたと聞いて大いに喜び、直に艦長室におつれ申してつゝ、がな

引取りました後年この時の事を顧みると一場の夢のやうな感じがしたとの事宮様は開陽丸におうつりなされて奥州へお出でになることになつた、さてこちらには上野です、彰義隊は戦死いたし又は落ち行く者もあり午後には彰義隊の影もなくなつた、戦死者は收容もされず現地に捨てられたまゝ、すると下谷の貧民窟の者が續々山内に入り込み目ぼしい物品を奪ひ自分の住居に運び入れる、この時に官軍はずしも咎めず、爲すがままに捨てた、われわれのやうな貧民はこゝはありかたしとそれからそれと手當り次第に品物を運び出す、今まゝ疊のたき家に住んでゐたものが俄かに高麗べりの疊を敷きつめ、夜具に紗の蚊帳を吊り、青磁の香炉に香をしゆらし、あゝ佳い匂だなぞといつてそれを臭ぎながら寝るものがある、その他に金を持つて来たことゝ酒を買ひ長屋の者は集まつて宴會を開き、三味線の代り木魚と鉦を叩き、鹽辛聲を張上げてはやり唄を歌ふ、イヤその當座は貧民窟は俄に活氣がつき、こぶる陽氣になつた、何故官軍がこの奴等の掠奪するを咎めぬと申すに、彰義隊が引き上げる際に地雷火を敷設して有るかと思はれ、思ひこゝで山内へ町の者を入れてその有無を知る手段とした山内に異状のなきを知つてこれから山に入り出口々々を警戒して町の者は犬も

これまでお起しなされたをお祝し申しかつ付添つて参つた小原長兵衛及び越前屋佐兵衛の勞をねぎらうため、二人はこれで重荷をおろした思ひは宮様より有難きお言葉賜はりこゝで

入れぬやうにしたさうです

國旗 提灯

店主が店員を連れて行く

正	正	正	か	を	店
シ	シ	シ	れ	連	主
イ	イ	イ	る	れ	が
酒	喫	食		て	店
場	茶	堂		行	員

平・田町
レストサロン
電三五二番

計時

高橋時計店
平町二丁目
・小商店員募集委細面談。

誰にも愧しいと思ひせよ

絶対保護できる性器具

衛生サツク

壹號品 一打 壹圓也(送料共)

貳號品 〃 六拾錢也(〃)

特製品 〃 四拾錢也(〃)

お求めの御方は平局内私書箱第三十四號宛に封入申込みますと直ちに職工の検査の上御名義にて送附いたします。(切手代用は〃割増)但し代金引換はお断りいたします。

特別奉仕
壹號品、貳號品は二打以上、特製品は三打以上御買上の方には定額一割引いたします。

●性病豫防 ●産兒調節

名宛 平郵私書局第三十四号

部生衛會商 (谷)

夏は！

キヤンプとハイキング

いつもお供は

マイコーカメラ

海も良し!!! 山も良し!!!
これさへあればいつも朗か楽しい旅行
このカメラならどんな素人でもキレイな寫眞が直ぐ撮れます。

トウゴロカメラ特約店
M.S.カメラ

いづみや玩具店
カメラ部

お醤油は ヤマフル

福島縣平町

醬油味噌
たひら正宗
鯉節食料品

醸造元

鹽屋

電話一七〇番

明治生命磐城代理店 山崎與三郎